水産加工協が直売所

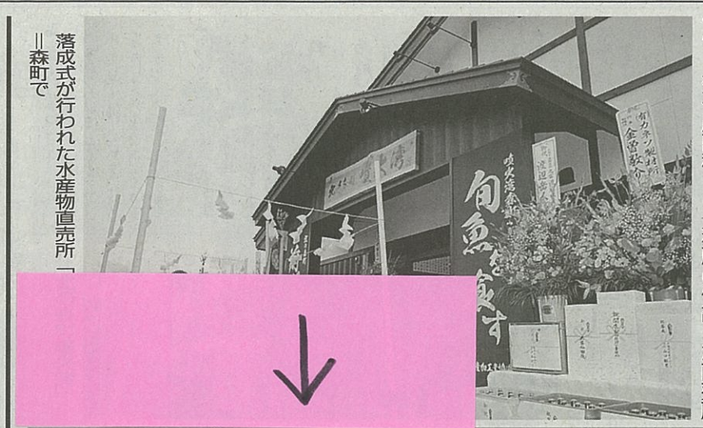
「北の森町噴火湾」地産地消を拡大

森町の水産物・水産加工品の普及を目指し、森水産加工協同組合が、直売所「北の森町噴火湾」をオープンした。木村俊一組合長は落成式で、「施設を活用し、町内外に森町の豊富な魚介類をPRしたい」とあいさつした。

直売所は木造平屋建てで、延べ床面積160平方㍍。水産庁の交付金を活用して建設した。地元で水揚げされたサケやホタテ、町の特産品のいかめしなどを販売する。活魚水槽や調理スペースもあり、森町の豊富な魚介類を見学することもできる。

同組合は以前から事務所に併設した直売所で水産物などを販売しているが、来年3月の北海道新幹線開業を見込んで直売所を新設し、旧直売所は廃止した。漁協婦人部と協力し、観光客や地域住民を対象とする料理講習会も計画している。

組合によると、森町で水揚げされた魚介類は函館市などに出荷され、地元で消費される機会が少なかった。組合の小池剛司参事は「これからはホタテなどがおいしい季節。多くの人に町を訪れてもらい、地産地消を拡大したい」と話した。【遠藤修平】



落成式が行われた水産物直売所＝森町で

「オペラ、身近に感じて」

裏方も市民が手掛け

あす公演 **函館アマ集団**

本番さながらの練習をする函館オペラの会メンバー＝函館市で

市民でつくるアマチュアオペラ集団「函館オペラの会」は8日、函館市湯川町1の市民会館で、プッチーニの歌劇「ジャンニ・スキッキ」を上演する。同会の公演は2012年以来3年ぶり。大坂吉明会長(70)は「函館のオペラの灯をこれからもともし続けたい」と話している。

同会の前身「函館市民オペラの会」は1991年、「カルメン」を初公演。ほぼ毎年公演してきたが、観客数の減少のため、12年の20回公演を最後に休止していた。公演再開を求める声も根強く、昨年末に「函館オペラの会」として再出発し、今回の公演に向けて練習を続けていた。

市民オペラ団体の公演では主役や指揮者をプロに任せることが多いものの、今回の上演は出演者や演出、オーケストラだけでなく、舞台装置や衣装、ヘアメイクなど裏方も市民が手掛けている。大坂会長は「オペラは難しいと思われがちだが、我々の公演を見て身近に感じてほしい」と話した。

上演する「ジャンニ・スキッキ」は、大富豪の遺産相続を巡る親戚たちの騒動と若い男女の恋を描いた喜劇。8日午後1時半開場、午後2時開演。チケットは一般2500円、学生1500円。【遠藤修平】

社会連携賞

国境地域研究で受賞

JIBSNフォーラムなど開催

尖閣諸島や竹島、北方領土問題など、さまざまな問題が顕在化している日本の国境地域（ボーダー）を研究してきた「境界地域研究ネットワークJAPAN（JIBSN）」が、地域研究コンソーシアム（宮崎恒二会長、99大学・研究機関加盟）の第5回社会連携賞に選ばれた。

同ネットワークは、2007年から日本各地のボーダーや離島で抱える問題点を探る「国境フォーラム」などを開催。研究者、自治体関係者らとの対話で活性化策などを探ってきた。近年は対馬やサハリンなどでボーダー・ツーリズムを企画するなど新たな観光も模索している。

地域研究コンソーシアムは、国家や地域を横断する学際的な地域研究を推進する99団体・組織をつなぐ学術団体。【本間浩昭】

街角ワイド

精巧な特殊造形「何でも作ります」

札幌 吉田ひでおさん

「あるもの、ないもの何でも作ります」。北海道の特殊造形師の第一人者、吉田ひでおさん(49)＝札幌市＝は、顔にグロテスクな装飾を施すゾンビメークからゆるキャラまで、幅広い分野で精巧な制作の腕を振るい、舞台や映画を盛り上げてきた。

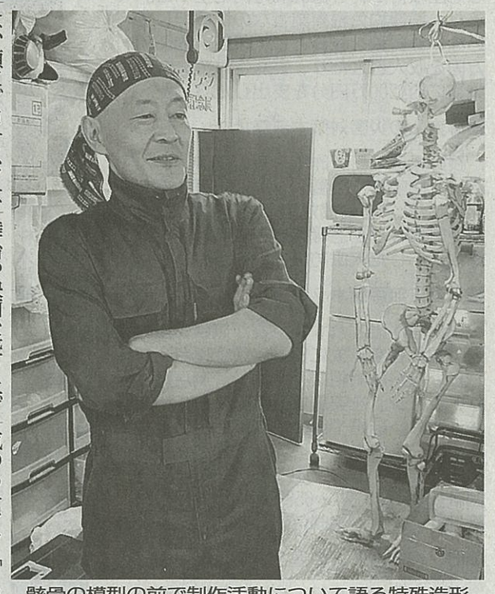
札幌市北区の民家2階にある工房。天井から骸骨の模型がぶら下がり、壁には作り物の女性の胴体が掛かる。無造作に置かれた刃がむき出しの電動のこぎり。仕事道具だと思って手に取ってみると意外な軽さに驚いた。「それも作り物です」。手ぬぐいで頭を巻き、つなぎ姿の吉田さんが笑った。

小学生時代から工作の虫だった。プラモデルを買ってもらえなければ、自分で方眼紙に設計図を書いて作った。中学時代には砂糖、水、小麦粉を混ぜてこね、友人の顔に貼り付けて凹凸をつけて特殊メークにも挑戦した。

北海道教育大札幌分校で美術を専攻していた1987年、映画「帝都物語」の衣装制作に参加。在学中に自宅に工房を開き、北海道では珍しかった特殊造形師の道を本格的に歩み始めた。

世に送り出した作品は数多い。夕張市の人気ゆるキャラ「メロン熊」や、JR北海道が運行する「旭山動物園号」列車内の座ると作り物の動物たちに抱っこされたように見える「ハグハグチェア」。北海道の民放テレビの深夜番組「水曜どうでしょう」に出てくる着ぐるみや小道具の多くも手掛けた。

制作中は魂を込めるが、完成した作品には思い入れを持たないという。「自分自身が作りたいと思うものもあまりありません。何かを必要とする人のために体が動かなくなるまで作り続けたい」。予



骸骨の模型の前で制作活動について語る特殊造形師の吉田ひでおさん＝札幌市北区で

大きくなって酪農家の元へ

釧路・乳牛一斉退牧

釧路市営の新野牧場（同市鶴丘）で6日、市内の酪農家から預かっていた乳牛の一斉退牧が行われた＝写真。酪農家の負担軽減のため、毎年5月中旬に出産を経験していない未経産牛を預かり、約170㌶の広大な敷地で放牧していた。

今年預かったのは22戸430頭。入牧時380㌔前後だった乳牛は平均約520㌔に成長し、適齢期の乳牛には人工授精も行われた。乳牛は体重測定の後、トラックに乗せられ酪農家の元に戻った。【近藤卓資】

千歳

支笏湖、熟成焼酎を引き揚げ

千歳市の支笏湖畔にある丸駒温泉旅館は、昨年10月に支笏湖に沈めた焼酎の瓶30本のうち15本を引き揚げた＝写真。瓶に入れた焼酎や泡盛は強い圧力のかかる水中深くで熟成させると味わいが増すとされ、同旅館は昨年から熟成焼酎作りを行っている。佐々木義朗総支配人は「角がなくなり、味にまろやかさが出た」と太鼓判。宿泊客らに提供するほか、新たな名産品として商品化を検討する。

岩内方言辞典

（見野久幸著、絵・阿部典英 響文社）

岩内町で日常生活に使う言葉（岩内方言）は、北海道海岸方言、特に北海道海岸方言ツとされる。著者が35年をかけて収集した約26について、発音をカタカ記し、それぞれを50音順に語彙を示した。

江戸時代初期から和人が住み着き、ニシン漁として栄えた歴史がある同ゲ（夕方、晩）、マッコ玉）など独特の単語に加イジ（漁場の親方から雇出す特別賞与金・手当）（船の中に入った海水）バ（魚、魚の行商人）と

毎日数独 SUDOKU

■第2322回の答え■

7	1	2	4	3	6	5	8	9
4	9	5	8	1	7	2	6	3
3	8	6	2	9	5	1	7	4
5	4	9	1	2	8	6	3	7
6	3	7	5	4	9	8	2	1
8	2	1	7	6	3	4	9	5
2	7	4	9	8	1	3	5	6
1	5	3	6	7	2	9	4	8
9	6	8	3	5	4	7	1	2